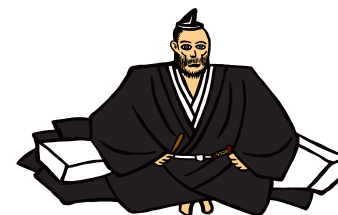




Hideyoshi Toyotomi
豊臣 秀吉
ガイドブック



HIDEYOSHI
GUIDE BOOK

『豊臣秀吉ガイドブック』平成23年3月発行

企 画／愛知県産業労働部観光コンベンション課

発 行／愛知県産業労働部観光コンベンション課 イラスト／蒲 優祐

監 修／小和田哲男(静岡大学名誉教授)

秀吉のふるさと愛知。

秀吉ほど多くの人々に愛され、また親しまれてきた武将は少ない。尾張の片田舎の農民の子として生まれ、武士や貴族にほとんどつながりを持たず、生まれ持った愛嬌や人情味で人の心を掴み、みるみるうちに天下を取った。その生き様が多くの人々の共感を誘い、生きる勇気を与えた。秀吉は愛知に生まれ、その若き日々を愛知に生きたのだが、実は28歳までの秀吉には、あまりにも謎が多い。後年に描かれた物語に彩られ、真偽の程はバールに包まれている。愛知に残された秀吉ゆかりの地を訪ねるコースは、そんな青年秀吉の、知られざる一面の姿を浮き彫りにすることができるかもしれない。

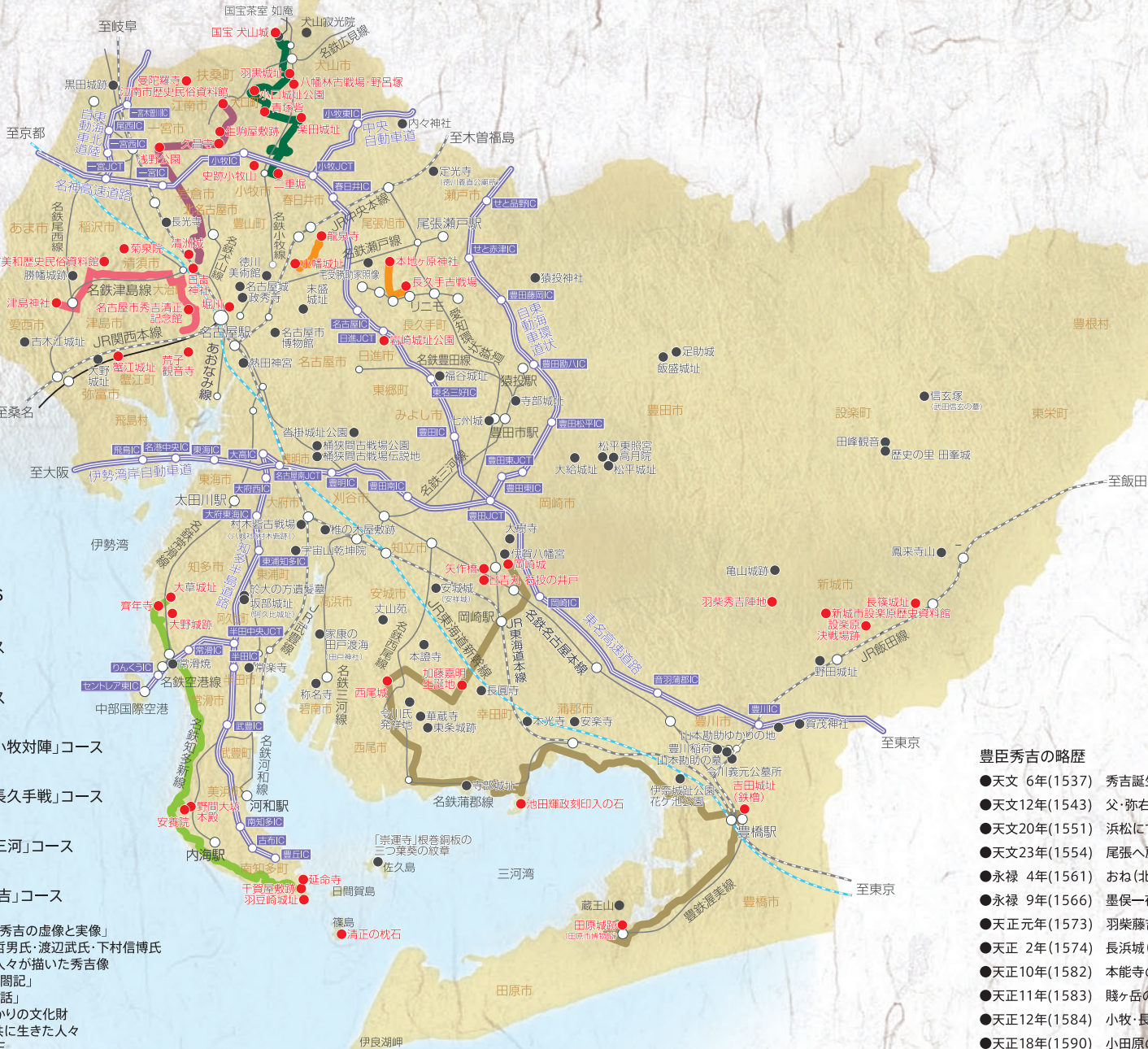
豊臣秀吉の略歴

- 天文 6年(1537) 秀吉誕生
- 天文12年(1543) 父・弥右衛門死す、母・なか(大政所)、筑阿弥と再婚(7歳)
- 天文20年(1551) 浜松にて今川義元の家臣、松下加兵衛に奉公(15歳)
- 天文23年(1554) 尾張へ戻り、信長に仕える(18歳)
- 永禄 4年(1561) おね(北政所)と結婚、この頃、木下藤吉郎と名乗る(25歳)
- 永禄 9年(1566) 墨俣一夜城を築城(岐阜県)(30歳)
- 天正元年(1573) 羽柴藤吉郎と改姓(37歳)
- 天正 2年(1574) 長浜城(滋賀県)を築城して入城(38歳)
- 天正10年(1582) 本能寺の変で信長死す(京都府)、清須会議(愛知県)(46歳)
- 天正11年(1583) 賤ヶ岳の戦い(滋賀県)(47歳)
- 天正12年(1584) 小牧・長久手の戦い(愛知県)(48歳)
- 天正18年(1590) 小田原の役(神奈川県)(54歳)、天下統一
- 文禄元年(1592) 朝鮮出兵(56歳)
- 慶長 3年(1598) 伏見城(京都府)に没す(62歳)

※秀吉の生涯から28歳までの経歴には不明点が多く、秀吉関連年譜には諸説ある(小和田哲男著「豊臣秀吉」を参考とする)。
※秀吉の名がみられる最古の文獻は「1565年の「坪内文書 木下秀吉知行行状」(秀吉28歳)」といわれる。

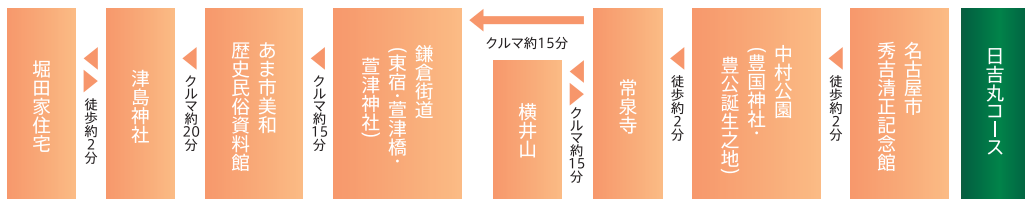
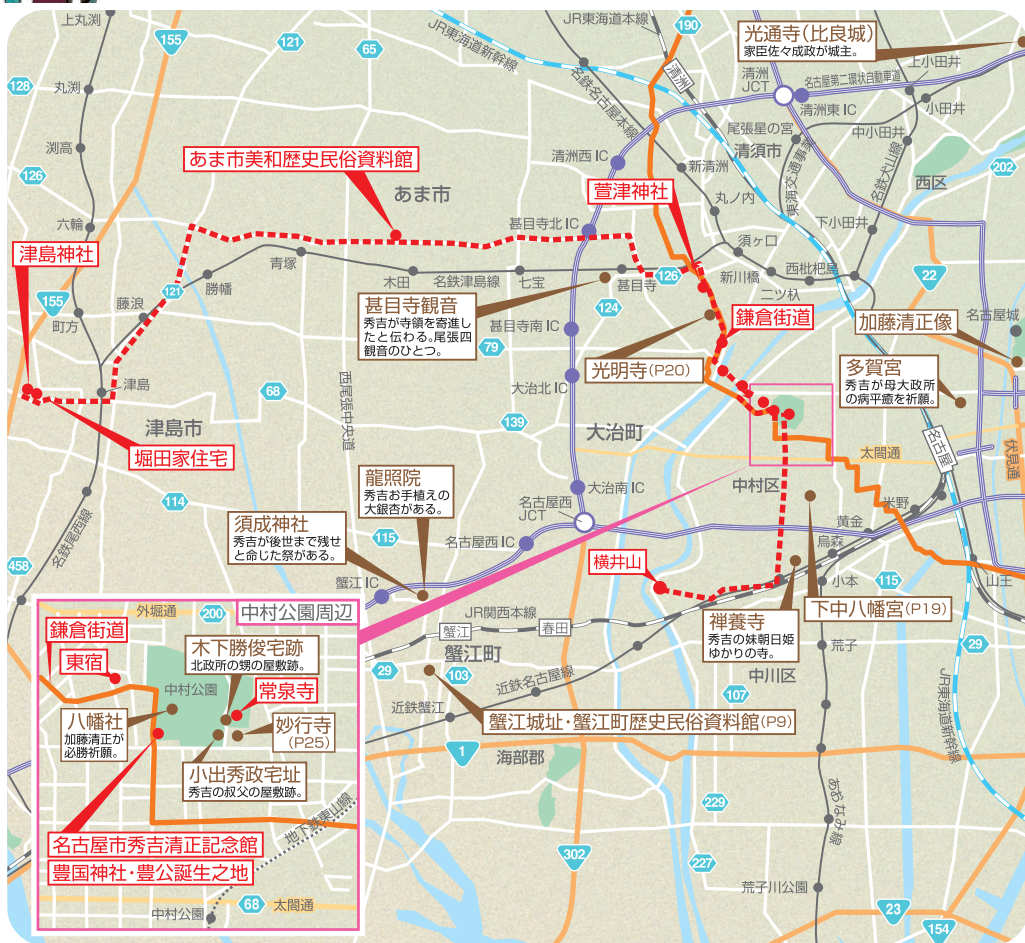
CONTENTS

- 03・04 「日吉丸」コース
- 05・06 「藤吉郎」コース
- 07・08 「天下分け目・小牧対陣」コース
- 09・10 「天下分け目・長久手戦」コース
- 11・12 「秀吉家臣団・三河」コース
- 13・14 「天下を狙う秀吉」コース
- 15-18 座談会「秀吉の虚像と実像」
小和田哲男氏・渡辺武氏・下村信博氏
- 19-20 後世の人々が描いた秀吉像
「絵本太閤記」
- 21-22 「武功夜話」
- 23-24 秀吉ゆかりの文化財
- 25 秀吉と共に生きた人々
加藤清正
- 26 前田利家
- 27 蜂須賀小六正勝
- 28 福島正則
- 29 北政所(おね)・大政所(なか)
- 30 秀吉と共に生きた人々 観光スポットマップ





「日吉丸」コース



- 名古屋秀吉清正記念館／〒052-411-0035 開10:00～17:00 (休月曜(祝日の場合は翌日)、第3金曜(祝日を除く)、12/29～1/3
※地下鉄東山線「中村公園」駅下車徒歩10分 P300円(30分まで無料)
- 中村公園／〒052-411-8106 (中村土木事務所) 地下鉄東山線「中村公園」駅下車徒歩10分 P無料
- 常泉寺／〒052-412-3467 地下鉄東山線「中村公園」駅下車徒歩10分 P無料
- 横井山／交バス「横井町」下車すぐ Pなし
- あま市美和歴史民俗資料館／〒052-442-8522 開9:00～16:00 名鉄津島線「木田」駅下車徒歩10分 困水・木曜、12/29～1/3 P無料
- 津島神社／〒0567-26-3216 名鉄津島線「津島」駅下車徒歩20分 P無料
- 堀田家住宅／〒0567-24-1111 (津島市教育委員会) 公開日:土・日・祝日 開10:00～15:00 ※火～金曜(祝日を除く) 観覧希望の場合は問い合わせ
料一般300円 小中学生100円 名鉄津島線「津島」駅下車徒歩20分 Pなし
- 松下加兵衛屋敷跡／交JR東海道本線「浜松」駅下車、遠鉄バス「掛塚」行「頭蛇寺」下車徒歩5分(静岡県浜松市) Pなし
- 太閤まつり／〒052-411-0003 (豊国神社) 地下鉄東山線「中村公園」駅下車徒歩10分 Pなし ※毎年5月開催



謎に包まれた秀吉の前半生の中で、ひととき多くの物語を生んだのが、天文6年(1537)に生まれ、中村郷の中々村(名古屋市中村区)でその多くを過ごした日吉丸時代だろつ。さまざまの説の中で共通しているのが、武士階級ではないその出自と、極貧の少年期である。しかし秀吉はそうしたことを微塵も気にかけず、屈託なく、明るく、思うがままに出世の道を選び続けた。そして最後には貧乏であることも、武士階級の出ではなかったことも跳ねのけて、天下人となる。

貧しさも、出自も、持ち前の明るさで跳ねのけて走り続けた日吉丸。



名古屋秀吉清正記念館
中村公園内にいる。この地に生まれた秀吉の一生を、史料、模型、パネル等で展示する。



横井山
秀吉や清正が遊んだ山といわれ、清正が名古屋城築城に使用した松の余りを植えたといわれる。



中村公園
秀吉を祀る豊国神社を中心に、豊公誕生之地碑、日吉丸となかまたちの像等が点在する。



あま市美和歴史民俗資料館
蜂須賀小六や福島正則生誕の地にある。戦国時代の武将ゆかりの展示品を数多く収蔵。



常泉寺
豊国大明神の廟堂。加藤清正が創建した。秀吉産湯の井戸、手植えの桜等がある。



津島神社
「棧門」は秀吉の寄進とされ、南門は秀吉の病氣平癒を祈って豊臣秀頼が寄進した。



鎌倉街道
鎌倉へと続く道として整備された。清須と中村を結び、かつて秀吉が歩いたとも考えられる。



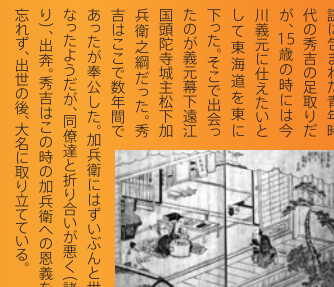
堀田家住宅
幼い頃の秀吉が堀田番頭家に奉公したと伝わる。また堀田家初代は、福島正則に中小姓として仕えたという。

TOPICS



太閤まつり/
写真提供・(財)名古屋観光コンベンションビューロー

秀吉のように逞しく
子の成長を願う「太閤まつり」
毎年5月に開催される、秀吉ゆかりの豊国神社恒例の祭。目印の大鳥居から中村公園入口までの間には昔懐かしい露店が軒を連ねる。また、子供達が秀吉のように出世するこを願う稚児行列が盛大に行われる。



松下加兵衛に仕える「絵本太閤記」より

生涯、秀吉が恩義を忘れなかった
松下加兵衛
謎に包まれた青年時代の秀吉の足取りだが、15歳の時には今川義元にならないうして東海道を東に下った。そこで出会うのが義元幕下、遠江国頭陀寺城主松下加兵衛の嫡子だった。秀吉はここ数年間であったが奉公した。加兵衛にはずいぶん世話になったが、たが同僚達と折り合いが悪く諸説あり、出奔。秀吉はこの時の加兵衛の恩義を生忘れず、出世の後、大名に取り立てている。



松下加兵衛屋敷跡/
写真提供・浜松市



「藤吉郎」コース



秀吉にとって確かな未来が開けつつあった。さまざまな出会いと別れがあった。

天文23年(1554)

浜松の松下屋敷を出て尾張に舞い戻った秀吉は
この時18歳。

念願かなって侍への道を歩み始めた。

また木曾川の南に面した江南の地では、その後、深い縁で結はれる蜂須賀小六との出云いもあった。さらに清須の城下で見かけた「おね」のもとに足繁く通い、妻に娶った。

妻の実家の苗字を貰つて木下藤吉郎と名乗り、武功を重ねたその名、木下藤吉郎が、確かな資料に現れるものこの頃。

やがて風雲急を告げる本能寺の変での信長横死を経て、秀吉は天下取りへの思いに目覚めていく。その第一歩を刻んだのは、清須城で行われた清須会議だった。



江南市歴史民俗資料館
秀吉と信長の出会いの場とされる「生駒屋敷」など江南市ゆかりの豊富な資料を収蔵。



堀尾吉晴邸趾(八剱社)
若き日より秀吉に仕え、豪勇で知られる堀尾吉晴。秀吉晩年には三中老を務めた。



久昌寺
生駒家長の妹、後の信長の室
である吉乃は、29歳の若さで
没。今も墓碑がある。



浅野公園(浅野長政公宅址)
浅野長政の屋敷跡。公園として
整備されており、園内には寧々
の歌碑、袈袈の水がある。



浅野長勝宅址
身分違いの長勝の養女おねを妻に娶りたいため、秀吉は清須から約一里の道のりを通ったとも。



御園神明社
清須城の三重堀の遺構が境内に残る。大政所が社殿を寄進したという。



清洲城
信長が居城した間、秀吉は割普請や薪奉行などで手腕を発揮したと言われ、出世の階段を登った。



日吉神社
秀吉の母ゆかりの神社という。
神の使いとして、境内各所には
狛犬ではなく猿が配される。

- ◀ クルマ約3分
清洲城
- ◀ クルマ約2分
御園神明社
- ◀ クルマ約5分
浅野長勝宅址
- ◀ クルマ約20分
浅野長政公宅址
- ◀ クルマ約15分
浅野公園
- ◀ クルマ約7分
久昌寺
- ◀ クルマ約8分
堀尾吉晴邸趾（八剣社）
- ◀ クルマ約8分
歴史民俗資料館
- ◀ クルマ約8分
江南市
- ◀ クルマ約8分
藤吉郎コース

- ① 江南市歴史民俗資料館 / 画0587-5513391 券名鉄大丸線「江南」駅下車徒歩6分 9:00~16:30 第3月曜(祝日の場合は翌日)、12/29~1/4 ② 無料
 ③ 堀尾古城跡 / 券名鉄大丸線「布袋」駅下車徒歩25分 ④ 無料 (堀尾跡公園)
 ⑤ 久昌寺 / 券名鉄大丸線「布袋」駅下車徒歩20分 ⑥ 無料 (隣接公園)
 ⑦ 浅野公園 (浅野長政公宅址) / ⑧ JR東海道本線「尾張一宮」駅下車、名鉄バス「岩倉駅」行き「浅野公園」下車すぐ ⑨ 無料
 ⑩ 浅野長勝宅址 / ⑪ JR東海道本線「清洲」駅下車徒歩15分 ⑫ なし
 ⑬ 御園神社 / ⑭ JR東海道本線「清洲」駅下車徒歩15分 ⑮ なし
 ⑯ 清洲城 / 画052-409-7330 (清洲城管理事務所) 画9:00~16:30 (天天開)、9:00~17:00 (芸能文化館)
 日曜曜(祝日の場合は翌日)、12/29~31、桜の花見期間、清洲城ふさまつり期間中は開館
 料大人300円/小人150円 券名鉄名古屋本線「新清洲」駅下車徒歩15分またはJR東海道本線「清洲」駅下車徒歩15分 ⑰ 無料
 ⑱ 日吉神社 / 画052-400-2402 券名鉄名古屋本線「新清洲」駅下車徒歩10分 ⑲ 無料
 ⑳ 墨俣一夜城 (墨俣歴史資料館) / 画0584-6233222 画9:00~17:00 (祝日曜曜(祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、12/29~1/3 画一般200円、高校生以下無料
 ⑪ JR東海道本線「大垣」駅下車、名阪バス「墨俣」下車徒歩15分 (岐阜県大垣市)



生駒屋敷絵図(イメージ図)



長良川沿いに建つ墨俣一夜城

時代の転換点となった清須会議



織田信長の横死後、重臣たちが清須城に集まって後継者を遺領の配分を合議した。後継者は秀吉の推す、その時まだ幼少の三法師に決定した。このため、それまで強い発言権を持っていた柴田勝家

田勝家に代わり、秀吉が重臣筆頭となった。時のしりが、賤・岳の戦いにつながり、ひいては秀吉の天下取りへのスタートとなった。

川並衆と生駒屋敷

信の美濃攻め、墨俣・夜城において、重要な戦景となつたのは、木曾川・長良川である。この二つの川を縦横無尽に行き来し、ある時は水運を営み、ある時は兵を率へたのが川井並衆、蜂須賀小六はまさにその頭領格であつた。その川井並衆と共に財を成したのが生駒家であり、生駒屋敷にはさまざまな侍浪人が集まり、活況を呈していたという。



長良川沿いに建つ墨俣・夜城



「天下分け目・小牧対陣」コース



● 3月13日
大垣城主池田恒興が秀吉側に寝返り、信雄の支配下にあった犬山城を奪取。同日、家康は、8千の兵を率いて清須に入り、信雄軍と合流、軍議を練る。

● 3月15日
家康、信雄と共に小牧山城に布陣。その勢力、家康、信雄軍合わせても3万（二説に1万6千7千だった）。

● 3月17日
小牧山城を狙う森長可（ながよ）は、羽軍小牧山城の動きを知った家康軍の酒井忠次に急襲され、森長可は犬山城へ敗走。

「羽軍の戦い」または「八幡林の戦い」といふ。

● **3月21日**
羽黒の戦いの敗戦の知らせを受け取った秀吉は、大軍を率いて大坂城を出発、大山に向かった。

● **3月27日**
秀吉は大山城に入城すると、羽黒から柴田を巡察、一重堀、岩崎山、小松寺などに砦を築くよう指示。

● **3月28日**
秀吉、家康の小牧山本陣からわずかずか約22kmの柴田を本陣とする。秀吉軍の総勢およそ10万（説に8万）。以降、小牧山と柴田およそ17m（説に8万）が続き、戦況は膠着状態に陥っていった。

● 4月6日夜半★未明
池田恒興は、この膠着状態を打破するための方策として、別動隊を家康の本拠地三河・岡崎に向かわせることを献策。秀次を大将とする総勢2万の兵が三河へ向かった。

● 4月8日夜半★
家康はこの秀吉方別動隊の動静を掴み、小幡城に入る。先発隊の榊原康政の軍と連絡を取り合い、秀吉方別動隊を挟み撃ちにする作戦。



「天下分け目・小牧対陣」コース

小牧对陣

天正10年（1582）の信長が横死した本能寺の變に
秀吉は破竹の勢いだつた。
山崎の戦いで明智光秀を蹴落し、
賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を亡き者とし、
もはや秀吉に対抗できる武将は、
信長の次男織田信雄（のぶかつ）と家康のみとなつた。
そんな秀吉に反旗を翻したのは、信雄たちだ。
天正12年（1584）3月、自らの家老3名を秀吉に
内通したとして謀殺し、秀吉に絶縁状を叩きつけた。
家康はこの機に乗じて信雄と組み、秀吉と対峙した。
圧倒的な軍勢力を誇る秀吉軍は、果たしてこの信雄
家康連合軍を討ち取ることができたのだろうか？



国宝 犬山城
秀吉が10万ともいわれる大軍を率いて入城。現存する最古の木造天守とされる。



小口城址公園
信長に攻められ廃城となったが、小牧・長久手の戦いで秀吉方の稲葉一鉄が付近の戦線を指揮した。



青塚砦(青塚古墳史跡公園)
古墳を利用して、森長可が構えた砦。合戦当時の地層から当時の鍋などが発掘されている。



楽田城址
秀吉方の前線基地として当初、堀秀政が入城し、小牧山城と対陣した。後に秀吉が本陣とした。



久保山砦跡
秀吉は楽田城から、この砦に出
て小牧山を見渡し、全軍を指
揮したため太閤山と呼ばれた。



小松寺砦跡
この一帯に東と西、2つの砦があった。秀次と丹羽長秀などが約8千の兵と布陣した。



岩崎山砦跡
家康軍の小牧山に対峙して構えられた砦。秀吉方の稲葉一鉄らが約4千の兵と布陣した。



二重堀砦跡
小牧・長久手の戦いにおける
秀吉軍の最前線基地。日根野
弘就兄弟が布陣した。

秀吉の天下取り、なるか？ 10万の軍勢を率いて、秀吉は負けられぬ戦と思いを定めていた。

小牧対陣コース

国宝
犬山城

小口城址公園

青塚岩
(青塚古墳
史跡公園)

楽田城址

久保山
岩跡

小松寺
岩跡

岩崎山
岩跡

二重堀
岩跡

約20分

約7分

約10分

約2分

約5分

約10分

- 国宝 犬山城／＼図0568-61-1711 時9:00～17:00（入場は16:30まで） 休12/29～31 観大人500円小中学生100円
 図名鉄小牧山跡／犬山、駅下車徒歩15分 図有料（普通車500円）
 ●小口城跡公園／＼図0587-94-0055 犬口町歴史民俗資料館 時9:00～16:30（展示棟・物見櫓） 休月・火曜（祝日の場合は翌日）、年末年始
 図名鉄犬山跡／柏森、駅下車徒歩30分 図無料
 ●青塚岩（青塚古歴史跡公園）／ガイダンス施設まほらの館 時9:00～17:00 月曜、12/28～1/4（ガイダンス施設） 公園は出入り自由
 図名鉄小牧跡／柴田、駅下車徒歩30分 図無料
 ●柴田城址／図名鉄小牧跡／柴田、駅下車徒歩6分 図なし ●久保山岩跡／図名鉄小牧跡／味岡、駅下車徒歩10分 図なし
 ●小松寺岩跡／図名鉄小牧跡／味岡、駅下車徒歩15分 図無料 ●岩崎山岩跡／図名鉄小牧跡／味岡、駅下車徒歩15分 図無料
 ●二堀岩跡／図名鉄小牧跡／小牧、駅下車徒歩20分 図なし
 ●史跡 小牧山（小牧市歴史資料館・小牧城）／＼図0568-72-0712（小牧市歴史資料館） 時9:00～16:30（入館は16:15まで） 休木曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
 観大人100円小（小学生）30円※土日祝日は小人数料金 図名鉄小牧跡／小牧、駅下車徒歩約30分 小牧山北駐車場利用
 ●犬山城白帝文庫歴史文化館／＼図0568-62-4700 時9:00～17:00（入場は16:30まで） 休12/29～31
 観大人100円（犬山市文化史料館、からく） 展示館入場料：中学生以下無料 図名鉄犬山跡／犬山、駅下車徒歩15分 図30台

TOPICS



小牧・長久手合戦図屏風/(財)犬山城白帝文庫蔵

小牧・長久手合戦 関原風

この屏風は二隻一対で、左隻には長篠合戦図が描かれてゐる。江戸期には將軍家や歴代尾張藩主からの要望に依つて披露してゐる。

犬山城の奥深く眠っていた
秀吉の風呂桶

小牧・長久手の戦いで、秀吉が犬山城に入城した際に、秀吉専用御殿として松之丸御殿が築かれた。入城に供い、秀吉は鎧櫃、風呂道具、膳等を持ち込んでいたが、これらは江戸時代を通して犬山城の奥深くにしまい込まれていた。



黑漆菊桐蒔絵 風呂道具/
(財)犬山城白帝文庫蔵

秀吉天下取りの戦略を見直す きっかけとなった、長久手の敗戦。

長久手戦

天正12年（1584）。

長久手の戦いは、4月9日未明に始まり、その正午頃にはほぼ決着を見ていた。秀吉の動きをこころよく察知していた家康軍の勝利である。

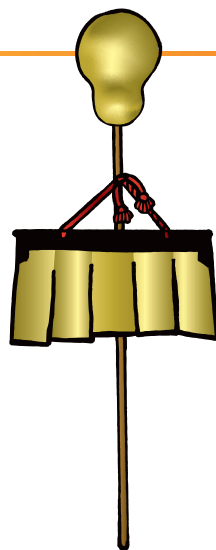
楽田に布陣していた秀吉の耳に

敗戦の知らせが届いたのは、昼過ぎのこと。慌てて出陣はしたものの、時すでに遅しだった。

しかしその後、秀吉は巧みな駆け引きを続けることで、戦いを和議に持ち込んだ。

軍事的な敗北を、秀吉はその政治力で覆したと言ってもいいだろう。

この戦いで秀吉は得ることのできない家康の力を知った。家康は秀吉に「一歩譲ることで、将来への含みを残したのだろうか。」



●4月9日未明

秀吉方別動隊は4隊に分かれて行動。第1隊の池田恒興は家康方の岩崎城から統制され落馬。このため恒興は、岩崎城を攻撃、落城せしめた。

●4月9日午前4時頃

秀次率いる第四隊、白山林に着陣。家康軍は、この別動隊の動きを密かに追尾。

●4月9日同

「白山林の戦い」。白山林で休憩していた秀吉が率いる秀吉方別動隊へ、家康軍が一斉攻撃。この奇襲で秀次隊はほぼ壊滅。

●4月9日午前7時

「松ヶ根の戦い」。秀次隊の敗北の知らせを聞いた秀吉方の堀秀政はすぐに松ヶ根に陣を敷き、榊原康政、大須賀康高ら家康方の追撃隊を撃ち破った。

●4月9日午前9時

「仏ヶ根の戦い」。秀吉方池田恒興隊と森長可隊が合流。田原、岐阜岳、首ヶ狭間に布陣。家康方は富士ヶ根から前山と仏ヶ根に移陣。そしてついに両軍激突。森長可が統制に倒れる。続いて、池田恒興が永井直勝に討取られ、さらに子池田庄九郎元助も安藤直次らに討取られる。

●4月9日正午 仏ヶ根

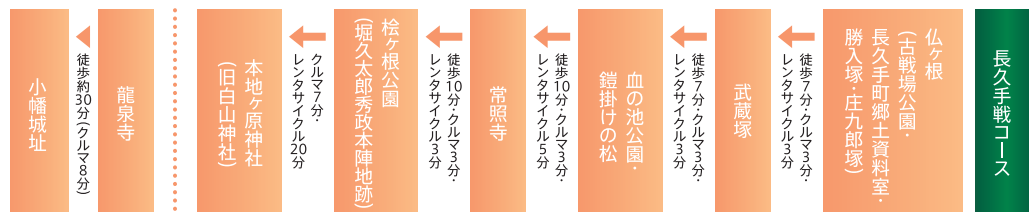
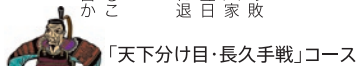
正午、仏ヶ根の戦いは終了。

●4月9日正午 楽田

同時刻で、秀吉は岡崎侵攻隊の敗北を知り、龍泉寺まで出陣した（家康が小幡城に入ったのを知り、翌日決戦としたが、夜間家康がすでに退却した事を知り、攻撃を断念）。

●4月9日午後4時

家康軍は、敗残兵の深追いをするこなく、小幡城に退去。その夜密かに小幡城を出て小牧山に戻る。



- 古戦場公園・長久手町郷土資料室・勝入塚・庄九郎塚／〇0561-62-6230（長久手町郷土資料室） 9:00～17:00（入室は16:30まで）（休月曜（祝日の場合は翌日）、12/28～1/4 突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「長久手古戦場」駅下車すぐ①無料（長久手町郷土資料室）※レンタサイクル貸出受付
- 武蔵塚／〇0561-56-0627（長久手町社会教育係）突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「長久手古戦場」駅下車徒歩7分②無料（長久手町郷土資料室）
- 血の池公園・鍔掛けの松／〇0561-56-0627（長久手町社会教育係）突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「秋ヶ池公園」駅下車徒歩10分②なし
- 常照寺／〇0561-62-0619 突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「はなみずき通」駅下車すぐ②無料
- 松ヶ根公園（堀久太郎秀政本陣地跡）／〇0561-56-0627（長久手町社会教育係）突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「はなみずき通」駅下車徒歩8分②無料（長久手町中央図書館）
- 本地ヶ原神社（旧白山神社）／〇0561-62-0335 突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「長久手古戦場」駅下車徒歩30分②無料
- 龍泉寺／〇052-794-3647 突JR中央線「大曾根」駅下車、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）「竜泉寺口」下車すぐ②無料
- 小幡城址／〇052-794-3647 突JR中央線「大曾根」駅下車、ガイドウェイバス（ゆとりーとライン）「竜泉寺口」下車すぐ②無料
- 蟹江城址・蟹江町歴史民俗資料館／〇0567-95-3812 休9:00～17:00 休月曜、年末年始無休②突JR関西本線「蟹江」駅下車徒歩10分②無料
- 菱野のおでく「菱野熊野神社」／〇0561-21-1951（瀬戸市文化課文化財係）突愛知環状鉄道「瀬戸口」駅下車徒歩5分②なし
- 安昌寺／〇0561-62-0035 突地下鉄東山線「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）「長久手古戦場」駅下車徒歩30分②無料



長久手町郷土資料室
長久手の戦いの史跡を巡るなら、ここで知識を仕入れ、レンタサイクルで回ると良い。



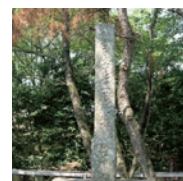
常照寺
岡崎侵攻隊の敗走を知った堀秀政がここに陣を構え、白山林から来る徳川勢を迎え撃ち、打撃を与えた。



勝入塚
秀吉方の池田恒興（勝入）戦死の場所。恒興らは家康本陣の岡崎攻めに向かったが失敗。



松ヶ根公園（堀久太郎秀政本陣地跡）
岡崎侵攻隊の敗走を知った堀秀政がここに陣を構え、白山林から来る徳川勢を迎え撃ち、打撃を与えた。



武蔵塚
森長可、戦死の場所。本能寺の変で戦死した森蘭丸の次兄。鬼武蔵とよばれた。



本地ヶ原神社（元白山神社石碑）
岡崎侵攻隊の三好秀次軍が早朝、このあたりの林で食事をとっているところを、徳川勢に襲撃された。



血の池公園
一帯が長久手の戦いの主戦場となった。多くの武将が血槍や刀剣をこの池で洗ったと伝わる。



龍泉寺
小幡城に入城した家康を追って秀吉がここに布陣。攻撃に備えて一夜で堀を築いたという。

TOPICS

菱野のおでく・警固祭り



菱野のおでく（3年に1度10月頃）

戦死者を供養した安昌寺



蟹江城合戦「絵本太閤記」より MAP P04

最後の局地戦 蟹江城合戦



小牧・長久手合戦陣立図/小牧市 小松寺蔵
写真提供：愛知県総務部法務文書課
泉史編さん室



「秀吉家臣団・三河」コース



秀吉家臣団——武断派と文治派

戦略に優れた加藤清正・福島正則らは戦で武功をあげ全国統一に活躍した(武断派)。一方、統一が進むにつれ石田三成・小西行長ら行政手腕のある官僚が優遇される(文治派)。池田輝政、田中吉政はどちらの長所も備えた武將といえる。



天正18年（1590）、信長の死から8年、小牧・長久手の戦いから6年。秀吉は最後に残された関東・奥羽の制圧をめざし、小田原攻めによって、ついに天下統一を成し遂げた。しかし、秀吉の戦いは終わらなかった。秀吉は小田原攻めの論功行賞として、家康を関八州（現在の関東地方）に移封したものの、家康の西上を恐れ、静岡から三河に至る、東海道沿いに秀吉の忠実な家臣たちを置き、防御に当たらせた。

小牧・長久手の戦い以降、家康に対する秀吉の懸念はますます膨らんでいたためである。

一方で、秀吉は刀狩り、大間検地などに取り組み、後に家康に引き継ぐことになる近世幕藩体制の礎を築き始めてもいたためである。

天下統一の先に、秀吉が見たものは？
新しい日本だったのか、それとも世界だったのか。



岡崎城
家康の関東移封後は、秀吉の命で田中吉政が城主となった。元天守は吉政の築造という。



岡崎二十七曲り(冠木門)
岡崎市内の二十七曲りは防衛
の目的を持った。多くの商店が
立ち並び、繁栄の元となった。



土呂城址
家康の幼少期から仕えた石川
数正が、家康の命で建てた城。
数正は後に秀吉のもとへ出奔。



加藤嘉明生誕地(上永良神明社)
秀吉の家臣、「賤ヶ岳七本槍」
の一人。後に陸奥会津藩藩主
となる。



西尾城(西尾歴史公園)
秀吉は西尾・吉良で鷹狩りを楽しんだという。田中吉政は岡崎城と共に、西尾城城主を務めた。



池田輝政刻印入の石(八王子神社)
名古屋城築城の際、三河地方から石垣用の石を切り出し、普請担当大名の刻印が刻まれた。



吉田城址(鉄櫓)
家康移封後、池田輝政が入城。秀吉は輝政に豊川の治水や吉田大橋の架橋を厳命したとされている。



田原城跡
池田輝政の家老、伊木忠次の持ち城の後に、田原藩の藩庁となった。画家渡辺華山は、田原藩家老

TOPICS

血と硝煙の匂い立ち込める
長篠・設楽原
天正3年（1575）、織田信長・徳川家康連合軍と、武田勝頼軍との間で行われた長篠・設楽原の戦い。信長は数千人の鉄砲で、最速の呼び声高かった武田軍を蹴散らした。当時39歳だった秀吉の陣跡が残る。また新城市設楽原歴史資料館には、豊臣十二将図や「戦国時代の甲冑や火縄銃、弾丸が展示されている。



檢地基準尺(複製)/
名古屋市博物館藏
原資料:尚古集成館藏



犬山城城備砲/新城市設楽原歴史資料館蔵



長篠合戦図屏風/徳川美術館蔵

- 岡崎線／＼0564-22-1222 9:00～17:00（入館は16:30まで）※12/29～12/31 観入者200円/小人100円※各駅名古屋本線「東岡崎」駅下車徒歩15分㊦有料（30分100円大型/バ3時間1100円）
 ●岡崎二七曲り（冠木門）／＼0564-23-6384（岡崎市観光課）※各駅名古屋本線「東岡崎」駅下車徒歩20分㊦なし
 ●土呂城村／＼0549-海海道本線「岡崎」駅下車 各駅名バ「福岡町」行きにて「福岡町」下車徒歩2分
 ●加藤嘉明生誕地（上永長神明所）／＼各駅名古屋本線「東岡崎」駅下車、各駅東部交通バ「上永長」下車徒歩5分㊦なし
 ●西尾城（西尾歴史公園）／＼0563-56-6191（岡崎市資料館） 9時：00～17:00（4～9月は18:00まで）※各駅西尾線「西尾」駅下車徒歩10分㊦無料
 ●池田輝刻印入の石（八王子神社）／＼0533-57-2856（毎月：3日曜日、午前中のみ対応）※各駅西尾線「西岡崎」駅下車徒歩8分㊦無料（西岡崎公民館）
 ●吉田神社（鉄橋）／＼0532-51-2430（豊橋市商業観光課）※鉄橋の一般開放は日曜、祝日の10:00～15:00（年末年始除く）
 ●JR東海道本線 各駅名古屋本線「豊橋」駅より豊橋鉄道市内線「市役所前」電停下車徒歩5分㊦無料（豊橋公園）
 ●田原城跡／＼0531-22-1720 9時:00～17:00 毎月祭（祭日の場合はなし）12/28～1/4 小学生100円/中学生100円、特別展・企画展は別料金 ※各豊橋鉄道美濃線「三河田原」駅下車徒歩15分㊦無料
 ●長篠城・長篠城史跡保存館／＼0536-32-0162（長篠城史跡保存館） 9時：00～17：00（入館は16:30まで）※火曜日（祝日の場合は次の平日）、12/29～1/3 一般～210円/小学生100円/JR飯坂線「長篠城」駅下車徒歩約7分㊦無料
 ●新城市設楽原歴史資料館／＼0536-22-0673 9時：00～17：00（入館は16:30まで）※火曜日（祝日の場合は次の平日）、12/29～1/3
 ●JR飯坂線「三河東郷」駅下車徒歩15分㊦無料 一般300円/小学生100円



「天下を狙う秀吉」コース



羽豆岬 羽豆崎城址	クルマ約3分	延命寺	クルマ約2分	千賀屋敷跡	クルマ約2分	安養院	クルマ約30分	野間大坊本殿	クルマ約3分	大草城址 (大草公園)	クルマ約35分	大野城跡 (城山公園)	クルマ約5分	齊年寺	クルマ約5分	秀吉コース	天下を狙う
--------------	--------	-----	--------	-------	--------	-----	---------	--------	--------	----------------	---------	----------------	--------	-----	--------	-------	-------

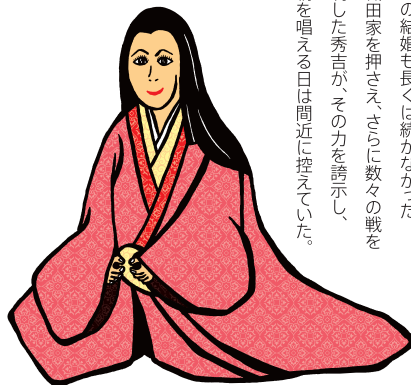
- 大草城址(大草公園)／※名鉄常滑線「新舞子」駅下車徒歩10分 展望台は8:30～17:00 ②無料
- 齊年寺／☎0569-42-0234 ※名鉄常滑線「大野町」駅下車徒歩10分 ②無料
- 大野城跡(城山公園)／☎0569-34-8888 (常滑市観光案内所) ※名鉄常滑線「西ノ口」駅下車徒歩15分 展望台開放時間[3月～10月]9:00～17:00 [11月～2月]9:00～16:00 ②無料(城山公園)
- 野間大坊本殿／☎0569-87-0050 本殿で絵解拝聴 5名以内は1回3000円、6名以上は1人500円(要予約) ※名鉄知多新線「野間」駅下車徒歩10分 ②無料
- 安養院／☎0569-87-0288 ※名鉄知多新線「野間」駅下車徒歩10分 ②無料
- 千賀屋敷跡／※名鉄河和線「河和」駅下車、知多バス「師崎」下車、または南知多町コミュニティバス「師崎西口」下車徒歩5分 ②無料
- 延命寺／☎0569-63-0439 ※名鉄河和線「河和」駅下車、知多バス「師崎」下車、または南知多町コミュニティバス「師崎西口」下車徒歩5分 ②無料
- 羽豆岬・羽豆崎城址／※名鉄河和線「河和」駅下車、知多バス・南知多町コミュニティバス「師崎港」下車すぐ ②有料(師崎港)

戦国時代と秀吉に翻弄されながら、 無念の死を遂げた信孝と、健気に生きたお江と。

清須會議以降柴田勝家は信長の三男織田信孝らと結び、さらに信長の妹お市を妻に迎えて、織田家存続に命を賭けた。そして賤ヶ岳の戦いが勃発。信孝は拳兵するも降伏を余儀なくされ、野間大坊に幽閉。安養院の二室で、あえなく自害する。

賤ヶ岳の戦いで母お市を亡くしたお江は、秀吉の元に身を寄せるが、やがて秀吉の命で、信長の妹お犬の方を母とする。佐治一成のもとに嫁いだ。

しかし、小牧・長久手の戦いで一成が家康・信雄連合軍についたことが秀吉の怒りを買い、この結婚も長くは続かなかった。織田家を押しさえ、さらに数々の戦を制した秀吉が、その力を誇示し、覇を唱える日は間近に控えていた。



大草城址(大草公園)
織田有楽斎が築城しかけたが、秀吉の命により途中で断念した幻の城。土塁や堀が残る。



齊年寺
佐治家の菩提寺で、佐治一成の位牌がある。元は大野城内にあったが、現在地に再建。



大野城跡(城山公園)
佐治一成の居城。一成と結婚したお江が、ここで暮らしたとされる。



野間大坊本殿
賤ヶ岳の戦いで秀吉に敗れた織田信孝の墓がある。本殿は伏見桃山城の一部を後に再建したもの。



安養院
織田信孝が秀吉との争いに敗れ自刃。その際の短刀や血染めの掛け軸が残る。(非公開)



千賀屋敷跡
佐治家の親戚筋にあたる千賀家の屋敷跡。千賀家は代々尾張藩に船奉行として仕えた。



延命寺
大坂夏の陣の際、戦利品として千賀氏が持ち帰った、豊臣方の「洛中洛外図屏風」を収蔵。



羽豆崎城址
かつては海上交通の要衝であり、千賀水軍の拠点であった。「羽豆崎城址」の碑が残る。

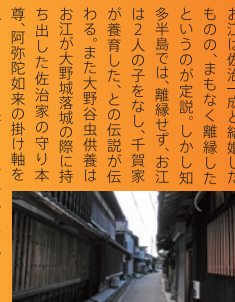
TOPICS



羽豆岬の朝陽/写真提供: 南知多町

羽豆岬は、古くから伊勢と東国を結ぶ要衝の地。このため戸田氏、佐治氏、水野氏など、さまざまな勢力が入り替わり、領地とした。江戸期から水軍を率いて周辺を治めた千賀氏は、後に張藩船奉行として絶大な力を誇示した。羽豆岬展望台からは、煌めきながら昇る美しい朝陽を眺めることができる。

知多半島の歴史を見つめてきた、 羽豆岬の朝陽



常滑市大野の街なみ/写真提供: 常滑市

知多半島につたわるお江伝説



江肖像画/養源院蔵



小和田 哲男氏

文学博士・歴史学者。静岡大学名誉教授。執筆や講演活動のほか、歴史番組の解説等でも活躍。NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国」で時代考証を監修。1944年生まれ。

秀吉の出自には、技術者集団との深い関わりがあったようだ。

秀吉、武士をめざす

小和田：秀吉は父弥右衛門の遺産永楽銭一貫文（現在の金額にして約5万円ほど）を持って、針を



秀吉の出自

小和田：生まれたのは、現在の名古屋市中村区あたりと見て間違いないでしょうね。

渡辺：生年については、『太閤素性記』では天文5年（1536）の元日となっていますが、『天正記で

知られざる秀吉像を解き明かす。

秀吉を始めとする戦国時代の研究で第一線の活躍を続ける小和田氏、晩年の秀吉が過ごした大坂時代に詳しい渡辺氏、そして地元愛知県から名古屋博物館の下村氏にお集まりいただき、知られざる秀吉像について、熱く語っていただきました。

小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）
渡辺 武氏（大阪城天守閣元館長）
下村 信博氏（名古屋博物館学芸員）

は天文6年（1537）2月6日となっています。これが信頼できるのではないのでしょうか？

下村：秀吉の若い時分のことについては、なかなか信頼できる記録が残っていません。出自について言うと、たとえば村の有力な名主、あるいは武士だったと考えると、一族一門、大勢の親戚がいるはずですが、秀吉が長浜城主に出世した際にも、頼ってくるのは年下ばかり。代わりに、おねの親族が家臣などに取り立てられています。

小和田：生母のなかには、御器所（名古屋市中村区）の生まれということになっていますが、このあたりは木地師（木工職人）がいたと言われている地域です。また伝承ですが、秀吉は若い頃に鍛冶屋の徒弟となったとも言われています。こうしたことから、秀吉は単純な農耕農民ではなくて、技術者集団と接触する境遇だったのではないかと、私は思っています。そういう素地が信長に仕えた際に、活かされたのでしょうか。墨俣一夜城築城や清須城の石垣修復などで技術力を発揮した、という話にもつながります。

買い、行商しながら、日の出の勢いのある今川義元にはえたいと考えて東を目指しました。その途中、浜松で地元の家士である松下加兵衛に出会って、拾われることになりました。

下村：秀吉が生まれた頃の中村は、今川氏の分家の領地であったかと思われます。つまり今川氏と深い関わりがあった土地なのです。このため秀吉は、ひょっとすると今川氏に対して、後に中村の領主となった織田信秀（信長の父）よりも、親しみを感じていたのかも知れません。駿河の今川氏を目指した意識の底には、そんな思いがあったのではないかと思います。

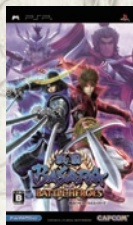
小和田：加兵衛の元を出た秀吉は再び尾張に舞い戻ります。そして一若とガンマクという旧友に出会い、その口利きで信長に仕えることになったのだと、私は考えています。30回以上職を変えたという秀吉がやと武士の道を歩み始めたのです。この頃、信長が生駒屋敷（江南市）へ通っていたのは事実と思われるから、当然秀吉もそこへ出入りをし、蜂須賀小六らとのつながりが生まれ、そして、蜂須賀小六らから有力な情報を得て、信長に耳打ちするなどして、信長の信頼を得ていったのではないかと、私は思っています。

渡辺：生駒氏は、川を利用した運輸を担っていたのでしょ。そういう仕事の性質上、京や広い範囲のさまざまな情報が入ってくるし、新しい情報も得やすい。そういう人たちが信長を支援していたようです。

下村：生駒氏は、油と染色用灰の商売をしていたと言われています。また馬を一頭持って、領内を

CULTURE

ゲーム



「戦国BASARA バトルヒーローズ」
PSP/CAPCOM
荒唐無稽な戦国アクションゲーム。様々な武将が人気を集め「歴史ブーム」のきっかけとなった。

漫画



「新装版 豊臣秀吉」
横山光輝漫画 山岡荘八原作（講談社漫画文庫）
気軽に山岡荘八の原作を楽しむことができる。秀吉の人物描写が独特。

まつり



「長久手古戦場桜まつり」
桜の開花の頃に開催。戦国時代の火縄銃発砲や愛知県代表的な伝統芸能である「棒の手」を楽しむことができる。

文化



写真提供/茂山狂言会

狂言の演目「耳引」
秀吉は、天皇の御前で家康、利家と共に素人能を披露。これが現在「口真似」や「井杭」として伝わり様々な流派で演じられている。

CULTURE

書籍



「完訳フロイス 日本史」4・5巻
ルイス・フロイス著 松田毅一・川崎桃太郎訳
（中公文庫・中央公論新社刊）
ポルトガル人宣教師が、外国人の目で見つめた秀吉の実像。



「詳細図説 秀吉記」
小和田 哲男著（新人物往来社刊）
謎の多い秀吉の生涯に、豊富な史料を駆使してアプローチ。秀吉の実像が明らかになる。



「新史太閤記」上・下巻
司馬 遼太郎著（新潮文庫刊）
誕生から、家康との調和親をを描く。司馬遼太郎独自の史観に基づく秀吉の人間像を活写。



「新書太閤記」1～11巻
（吉川英治歴史文庫）
吉川 英治著（講談社刊）
ロングセラーとして多くの読者に親しまれ、最も多く読まれた太閤記と言われている。

読む・見る・感じる・体験する『秀吉』



内部は8階建てとなっており、各階を通して、秀吉とその時代、大坂城や当時の大坂の街の様子等が様々な資料によって紹介されている。秀吉が利休に造らせたという黄金の茶室(原寸模型)の美しさには目を見張る。

大阪城天守閣

大阪府大阪市中央区大阪城1-1
 開 06-6941-3044
 開 9:00~17:00(入場は16:30まで)
 休 年末年始(12月28日~1月1日)



歴史博物館として、考古・美術工芸・文書典籍・民俗に関する資料を収集・保存し、展示公開している。常設展示室では、「尾張の歴史」が原始から現代まで一瞥できるよう、16のテーマにわけて紹介している。

名古屋博物館

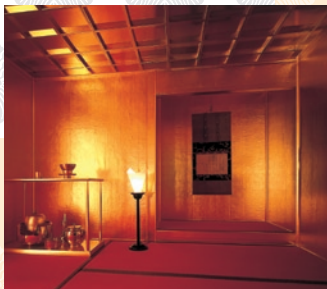
名古屋市中区瑞穂区瑞穂通1丁目27-1
 開 052-853-2655
 開 9:30~17:00(入場は16:30まで)
 休 毎週月曜日(休日の場合は直後の平日)
 第4火曜日(休日を除く)
 年末年始(12月29日~1月3日)



金瓢の馬印(復元)



桐文蒔絵軍配



黄金の茶室



蜻蛉燕文様陣羽織

渡辺：秀吉が造らせた「黄金の茶室」は、とてもすると「成金趣味」とか、「安物志向」などと揶揄されています。しかし私はMOA美術館(静岡県熱海市)の本格的な復元模型をその室内に座して拝見する機会がありました。そのとき、とても重厚で豊かな印象を受けました。前例にとらわれない、誰も想像できなかった新しい芸術作品と見ていいのではないのでしょうか。決して安物の感覚ではありません。

小和田：秀吉は、公家と歌会をよくやっていて、どこで勉強したのか、とてもいい歌をたくさん残していますね。

渡辺：能は自分の体験である「明智討伐」「吉野の花見」などをテーマにした創作能を書かせ、自分で舞っています。また当時の建築に取り入れられた狩野派に代表される障壁画(これは秀吉がいなければ、花開かなかったのではないのでしょうか。この当時の文化を「桃山文化」といいますが、正しくは「安土・伏見・大坂文化」といふべきだと思います。いずれにしろ、この時期の美術文化は秀吉の個性の影響が大きいです。秀吉は何か前例のない、新しいことを始めたかったのだと思います。



渡辺 武氏

元大阪城天守閣館長。高校の教員を経て1962年より大阪城天守閣に学芸員として勤務。'73年より館長を務める。専門は織豊史。著書に「図説 再見大阪城」他。1937年生まれ。

秀吉は何か前例のない、新しいことを始めたかったのでしょうか。

秀吉の戦

渡辺：天正12年(1584)4月9日の小牧・長久手の戦いで秀吉軍は手痛い敗北を喫することになります。私はもともと秀吉は幕府を開きたいと考えていたと思います。しかし、征夷大將軍として幕府を開くためには、今谷明さんの説によれば、源頼朝以来、中央政府に服従しない東国の勢力を武力で平定することが慣例でした。それに成功した者でなければ幕府を開くことはできなかったのです。小牧・長久手の戦いは、秀吉の將軍への野心が打ち砕かれた戦いであつたと思います。

小和田：この結果を見て朝廷も、秀吉は征夷大將軍には値しないとしたのでしょうか。だから仕方なく、秀吉は次善の策として史上初の武家関白の道

秀吉の教養

渡辺：秀吉は自分の誤字や当字を、まったく恥じることなく、多くの自筆書状を残しています。悪筆ですが、スピード感のある、今でなら達筆といえるかもしれない文字です。たとえば天正5年頃の黒田官兵衛宛自筆書状には、わざわざ追って書きの最後に「悪筆で読みにくいかもしれませんが、なんとご理解してほしい」と書き加えています。必死で思いを伝えようとしているのです。

小和田：晩年の秀吉についてはいかがですか？

自由に通じることができるという権利を信長から得ていました。生駒氏はこの後も、ずっと織田家を支え続けました。



下村 信博氏

名古屋博物館学芸員。1981年より勤務。専門は日本中近世史。著書に「戦国・織豊期の徳政/中世史研究選書」(吉川弘文館)他。1950年生まれ。

秀吉が東を目指したのは、中村と今川氏とのつながりかもしれない。

を重視したのです。もし小牧・長久手の戦いでの本意な結果がなければ、羽柴幕府が誕生していたかもしれません。

渡辺：大坂幕府ですね。当時、秀吉は御所を大坂の天満へ移転するという計画や、京都五山の仏教寺院などもすべて大坂へ移すという計画を持っていたようです。これらが、すべて反故になったのは、家康との戦いに秀吉が勝てなかったからでしょう。

下村：小牧・長久手の戦いでは池田親子と森長可が死んでいます。この戦いに出席する、わずか数週間前に書かれたと思われる森長可の遺言書が、本人の署名はありませんが、名古屋博物館に収蔵されています。森長可は親兄弟のすべてを戦いで亡くしていますが、自身も戦死を覚悟して残した遺言書と思われる。娘と思われる女性に対して、「武士ではなくて、京都の医者に嫁ぎなさい」などと書いてあります。戦乱の世の娘を思う気持ち伝わってきます。

小和田：心づたれる遺言書ですね。

CULTURE



「武将弁当 秀吉膳」

天下人になった秀吉を最上級の料理でもてなした家康献上の贅麗料理を再現。



豊臣秀吉「太閤飴」

醍醐の花見にちなむ桜味の飴。豊臣家紋五七の桐を图案化している。



「銘酒 荒子城・前田城」

前田利家生誕地には「荒子城」と「前田城」の2説がある。その地にちなんだ銘酒。



「守口漬」

かつて河内国守口(現・大阪府守口市)の名産品だった守口漬は秀吉が賞賛したと伝わる。

グルメ

「絵本太閤記」

創作ながらも、
秀吉の生涯を生き生きと描き、
秀吉人気の原点となった書。

秀吉に関する伝記は膨大な数に上るが、寛政9年(1797)に初編が刊行された『絵本太閤記』は、一般庶民を楽しませることを目的としており、それまでの伝記とはやや性格が異なる。虚実織り交ぜて秀吉伝説を語った『絵本太閤記』は、江戸時代後期の庶民たちの喝采を浴びたのである。

『絵本太閤記』とは

刊行開始より5年間の間に7編84冊が世に送り出された。戯作者武内確斎と挿絵師岡田玉山による親しみやすい文章と豊富な挿絵で、江戸時代の庶民の人気を集めた。そのあまりの人氣に、徳川幕府はついに絶版を命じるにいたる。多くの創作を含み、それ故に、様々な秀吉イメージが流布した一因ともなった。



絵本太閤記／名古屋市中村図書館蔵
※館内で閲覧可能です。



「日吉丸誕生」(初編一)

英雄譚のはじまり

まずは、秀吉の出生。『絵本太閤記』には、時に天文5年丙申の元旦、寅の一天に男子誕生」とある。つまり1月1日、日の出の刻。まさに英雄の誕生にふさわしい物語のはじまりである。秀吉の母なかが日吉権現に男子の授かることを願って日参し、その霊験が日輪に入る夢を見て、たちどころに懐妊したという。

小六との出会い

秀吉は、両親の勧めにより尾張光明寺の徒弟となった。しかし親たちの意に反して、秀吉は悪童ふりを発揮。怒った寺の僧が追い出しにかかる。今度は寺の本尊阿彌陀如来の首まで落として暴れ回り、ついには実家に戻されてしまう。以降、秀吉の流浪の旅がはじまる。



「藤吉郎、信長に仕える」(初編二)

信長への仕官

続いて『絵本太閤記』は蜂須賀小六との出会いを描く。あまりにも有名な、矢作橋の出会いである。旅に疲れた秀吉が三河国矢作川(岡崎市)の橋の上で寝入っていると、野武士の頭領蜂須賀小六に起こされ、手下になる。また小六の命令で、ある金持ちの家に忍び込む。しかし家人達に気付かれたので、秀吉は井戸の中に石を投げ込み、大声をあげ、その隙に乘じて見事、難を逃れたという。



「日吉丸、蜂須賀小六と出会う」(初編一)

いよいよ信長との出会いである。『絵本太閤記』で秀吉は、永禄元年(1558)に小牧山の狩り場で狩を楽しむ信長に、仕官を直訴したとある。またある時、清須城の石垣が崩れ、その修理を買って出たのが秀吉。信長に「自分に任せれば、3日で完成させる」と豪語した。工事箇所をいくつか分けて分担し、競争させながら作業する割普請という工法を採用し、みごと工事を完成させた。おねとの結婚は永禄4年(1561)、『絵本太閤記』では媒酌人を前田大千代利家が務めたとしているが、当時まだ前田利家と秀吉はその身分に雲泥の差があったようだ。

勝家との覇権争い

時は飛んで、信長の死後。その後継を巡って信長の重臣たちが清須城に集まった。秀吉の他、柴田勝家・丹羽長秀・池田恒興である。秀吉は自らが推す、信長の孫である三法師をかっさだし会議に出席。結果的に衆議一決で三法師への相続が決定するのだが、これに不満を抱く柴田勝家と秀吉の覇権争いが激化、やがて天正11年(1583)、勝家滅亡の賤ヶ岳合戦へと発展していくこととなる。



「柴野大徳寺で信長の葬礼を営む秀吉」(四編十一)



柴田勝家肖像画／福井市立郷土歴史博物館蔵



●柴田勝家誕生地・明徳寺(名古屋市)
柴田勝家の生誕地については諸説ある。同所に柴田勝家の居城、下社城址の碑もある。
名古屋市長東区陸前町1310



●清須城の石垣(清須市)
1586年頃に信雄が築いたと考えられる。本丸南側の石垣が発見され、清洲古城跡公園内に再現されている。
MAP P06



●光明寺(あま市)
秀吉が幼少の頃修行を積んだといわれている。同名の寺が多く、史実も定かではない。
MAP P04



●史跡小牧山(小牧市)
『絵本太閤記』では信長が鷹狩り場としてよく訪れた。
MAP P08



●日吉丸石投の井戸(岡崎市)
600年以上、味噌造りを続ける老舗の工場内に、この伝説が伝わる井戸がある。
MAP P12



●矢作橋(岡崎市)
『絵本太閤記』では、秀吉と小六が矢作橋で出会ったとされているが、当時橋は存在しなかったという。
MAP P12



●下中八幡宮(名古屋市)
日之宮神社(日吉権現)での祈願で身ごもった「なか」が、安産を祈願したといわれる。
MAP P04



●豊国神社(名古屋市)
秀吉の生誕地とされる地の隣に、明治18年(1885)当時の県知事や地元の有志により、創建された。
MAP P04

「武功夜話」

土蔵から現れた
門外不出の文書が、
秀吉の史実に一石を投じた。

昭和34年(1959)9月26日、未曾有の大型台風(伊勢湾台風)が東海地方を直撃した際、愛知県江南市の吉田龍雲(たつとも)氏の土蔵も風速40メートルの風に倒壊した。
この土蔵の中から現れたのが、膨大な「前野家文書」であり、この中に『武功夜話』が含まれていた。

『武功夜話』とは

秀吉の家臣として武功をあげた前野将右衛門の武勇伝を、将右衛門の兄の孫である吉田雄健(かつかね)らが記したものとされる。身内に語り継がれた戦や、秀吉・信長・蜂須賀小六らの思いが書き留められている。これが吉田家に代々伝わってきたもので、表紙に「貸出しの儀平に断るべし」との但し書きがある通り、一切門外不出であった。



武功夜話原本／吉田家所蔵

蜂須賀小六との出会い

後に秀吉の忠実な家臣となった蜂須賀小六との出会いも、描かれている。舞台となったのは、生駒屋敷。ここには多くの武士や浪人が出入りし、生駒家の娘吉乃が信長の室となったこともあって、信長もしばしばここを訪れていた。蜂須賀小六もその一人だった。

そこへ訪れたのが浜松の松下家を出奔し、尾張に舞い戻った頃の秀吉である。『武功夜話』では秀吉について「小才の口利きの者」「面がまえよき者」「小兵といえども武辺を好み」「軽々と立ち振る舞い、尋常の働きあり」と描いている。



「於生駒屋敷藤吉郎信長公に御目見吉乃女仕官を取持」吉田龍雲画

信長に仕官を懇願

『武功夜話』では、弘治元年(1555)のころと書く。秀吉は生駒屋敷で信長の室となった吉乃に、気に入られていた。やや下品な話を、年若い吉乃に面白おかしく語り聞かせたのだろう。そんな中、秀吉は信長、吉乃に気に入られた。見るや、信長に直接奉公を願い出た。周りの者に注意されるのも構わず言い、さらには吉乃にも頭を下げ、口利きを頼んだという。そのかいあって、ついに清須城へ奉公がかったのである。

秀吉の出自は？

さて、ではその『武功夜話』に、秀吉らが描かれたくだりを紹介しよう。まずは秀吉、出生の謎。父について、「名は木下弥右衛門、信秀の鉄砲足軽とする説、あるいは水呑百姓であったとする説、また「貧しい農民」の説などがある。これらに対して『武功夜話』では秀吉を「村長の倅」と表現。つまり同じ農民でも、身分的にはかなり高かったと伝えている。



木曾街道六十九次「五十三」木曾街道鶏沼／駅従大山遠望」／国立国会図書館蔵



鎖帷子／江南市歴史民俗資料館
秀吉が墨俣城築城時、作者者に着用させたと伝わる。

秀吉がついに出世の糸口を掴んだ、小牧山城での献策

永禄7年(1564)のころ、信長は小牧山城に拠点を移し、美濃征服の手がかりに、まずは大山城を攻めよと画策していた。『武功夜話』には、この時の秀吉の活躍も描かれている。秀吉は、まだ28歳、やっと足軽鉄砲隊百人組をまかされる頭となったばかりの頃である。

「せっかく五千余の大軍があるのですから、大山城一つ攻めるだけではない、木曾川の向こうの鵜沼城を攻めてはどうか？」と、秀吉は言い放った。むろん秀吉には勝算があった。この戦では橋一つない木曾川を渡らねばならないが、その時強力な援軍となるのが、秀吉の味方についていた川並衆蜂須賀党の存在だった。秀吉はみごと、献策どおり、このことを運び、信長家臣として出世の糸口を掴んだのである。



●慈光院の赤門(江南市)
寺の再興に奔走した僧の功績を認め、秀吉が門の朱塗りを許可したという。別名「飛保の赤門寺」。
MAP P06



●江南市歴史民俗資料館(江南市)
墨俣城築城時、小六に命じられた前野氏が築城道具の運搬に使ったというソリの車輪を収蔵。
MAP P06



●龍神社(江南市)
信長がしばしば訪れた吉乃御殿は、現在の社務所の東あたりにあったという。
MAP P30



●吉乃の方経塚(江南市)
信長の室、吉乃の方を茶毘にふした場所。石碑に刻まれた観音像は、小牧山を向いている。
MAP P30



●廣間家の門(江南市)
廣間家は、生駒家ご用医の家柄。この屋敷の門は生駒屋敷の中門を移築したもの。
MAP P06



●宮後城跡(江南市)
尾張国蜂須賀村から蜂須賀小六が移り住み、後に徳島藩祖となった小六の子・家政の誕生地とされる。
MAP P30



●生駒屋敷跡・小折城(江南市)
生駒氏は奈良から小折に移り住み、油などを扱って財をなしたと言われている。
MAP P06



●前野家屋敷跡(江南市)
「前野家文書」が綴られた屋敷。前野家は吉田家となり、「前野家文書」を代々保存してきた。
MAP P06



長篠合戦図屏風／名古屋市博物館

古い日本画の作風で、書き込みが少ないのが特色。
もともと武田軍を描いた右隻があったと思われる。

黒塗菊桐蒔絵鎧櫃／
(財)犬山城白帝文庫

小牧・長久手の戦いの際、
秀吉が犬山城に持参したと伝わる。
平蒔絵の菊桐紋と鍍金の
金具で豪華なつくり。

茶地動植物人物文様
刺繍ピロート陣羽織／
名古屋市秀吉清正記念館

秀吉が着たと伝えられる陣羽織。
茶色のピロートに、自然や人物などが
刺繍されている。



真珠付純金団扇／徳川美術館

柄や枠が純金製。
緋色の紗を張り、
多数の天然真珠を付けている。
豊臣秀吉所持との
言い伝えがある。

色々威二枚胴具足／
名古屋市秀吉清正記念館

秀吉着用の甲冑。
兜は僧侶の頭巾をかたどり、
また僧が手にする
「払子(ほうす)」が
ささっている。

馬蘭後立兜(複製)／
名古屋市秀吉清正記念館
(原資料:大阪城天守閣蔵)

馬蘭は、菖蒲の一種。
その葉を日輪に見立てている。
九州攻めの際、豊臣秀吉が
蒲生氏郷家臣の西村重就に、
ほうびとして与えたもの。

豊臣秀吉画像／名古屋市秀吉清正記念館
同館所蔵の色々威二枚胴具足を着用した秀吉画像。

天正大判／三菱東京UFJ銀行貨幣資料館

天正16年(1588)、豊臣秀吉が彫金師の
後藤家に命じて作らせた。
通貨ではなく、恩賞などとして用いられた。



青磁香炉 銘 千鳥／徳川美術館

千利休の師、武野紹鷗が所持していたとされ、
秀吉、家康へと受け継がれた後、
尾張徳川家初代義直に伝わった。

これまでに「誰も見たことのない」ものを求めて、
秀吉は金に糸目を付けず、さまざまな書画・財宝を集めた。
また身につけるものや建物にも贅を尽くし、
桃山文化を花開かせたのである。

秀吉ゆかりのお宝を訪ねて。



銅鐘／曼陀羅寺

朝鮮出兵の際にもたらされたものといわれ、
形は典型的な朝鮮鐘。

加藤 清正

秀吉と共に武功を重ねながら成長した清正。一度は豊臣家と距離を置いたものの、晩年には再び忠誠を尽くした日々があった。



名古屋秀吉清正記念館蔵

秀吉と同郷に生まれ、子飼いの武将として成長。永禄5年(1564)の生まれ。母伊都は秀吉の母なかの従姉妹、誕生した家の隣は秀吉の家であったとの説もある。5歳で津島へ移り、15歳の時、母の勧めで秀吉に仕官した。以降、秀吉に従いながら武功を上げ、そしてついに賤ヶ岳の戦いで勇将の地位を不動のものとした。また合理的で財務に長け、台所方としても名を上げた。

清正のもう一つの素顔は「建築家」。

築城については名手として知られ、熊本城、名古屋城など多くの築城に携わった。また治水事業にも長け、今日でも通用する優れた土木技術を残している。名古屋城築城の際には、天守台の石垣を任せられ、わずか3ヶ月で工事を完了した。この石垣に使われた石を切り出した石切場の跡が、県内各所に数多くある。

関を原では東軍方にいたものの、秀吉への恩義は一生忘れることがなかった。清正座右の銘「敬主二無過」は、主を敬い一筋に尽くすことにまさることなしの意であるといふ。

生まれた時から秀吉に縁が深かった清正。秀吉のもとで幾多の争いを戦い抜き、武功を重ねた関ヶ原の戦いでは豊臣側には立たなかったものの、終生、秀吉への厚い忠誠心を失わなかったという。彼の武断派だけではない、もうひとつの側面も見てみたい。



■名古屋城

名古屋城築城の際、清正は天守台の石垣工事を任せられ、わずか3ヶ月の短期間で工事を終えた。
 図地下鉄名城線「市役所」駅下車、徒歩5分 図052-231-1700(休年末年始(12/29~1/1))

前田 利家

若かりし頃は、「槍の又左」と怖れられ、派手でやんちゃな傾奇者。長じてからは豊臣政権の重臣として生きた。



開禅寺蔵

天文6年(1537)、尾張国海東郡荒子村(名古屋市中川区)の生まれ。天文20年(1551)には織田信長に小姓として仕えたが、若かりし頃は、短気で喧嘩早く、いつも派手な格好で町を歩いたという。萱津の戦いで初陣し武功をあげ、この頃から「槍の又左」の異名で呼ばれ、怖れられていた。



■荒子観音寺

利家が日本堂を再建。多宝塔は名古屋市中に現存する最古の建築物。多数の円空仏や利家の鎧兜を収蔵。
 図地下鉄東山線「高畑」駅下車徒歩10分またはあおなみ線「荒子」駅下車徒歩10分 図052-361-1778

加賀百万石の基礎を築く。

信長家臣としての大抜擢、まつとの結婚など、一時はこのまま順調に武将の道を歩むかに見えた。しかし、信長の同朋衆拾阿弥を斬殺して出奔、2年間の謹慎暮らしを送ったと言われる。

やがて柴田勝家の与力となり、信長死後の清須会議で秀吉と勝家が対立、賤ヶ岳の戦いへとつれ込むと、利家は当然柴田軍として戦ったが、戦線を離脱、一転して秀吉方として、北ノ庄城に籠った勝家攻めの急先鋒となる。この武功で加増された加賀国は、加賀百万石の基礎となった。

家康と互角の有望を集めた秀吉重臣としての最期。

その後は秀吉の家臣として数々の戦に参加、慶長3年(1598)、利家は秀吉より家康と並んで、五大老の一人に任じられる。さらに秀吉嫡子の秀頼の将来を託され、後見役を命じられた。家康と互角の有望を持っていた利家が、今少し存命していれば、家康を牽制することができたかもしれない。秀吉の没後8ヶ月で、後を追うように病没した。

前田 利家 MAP P30



●奥村永福公出生地碑

末森城籠城戦で有名な奥村永福は加賀藩祖前田利家の城代家老として仕えた。貴船神社は永福の屋敷跡と伝わる。
 図名鉄尾西線「奥町」駅下車徒歩8分 図なし



●前田速念寺(前田城址)

利家生誕地とされる一つ、かつて前田家の本城の前田城があった。利家寄進の阿弥陀如来像が本尊。
 図近鉄名古屋線「伏屋」駅下車徒歩5分



●成興閣の梅の木と前田利家公初陣之像

前田家家紋、梅の若木が金沢成興閣から運ばれ、利家公初陣之像の隣に移植されている。
 図あおなみ線「荒子」駅下車徒歩10分 図なし



●荒子城跡

利家の父と長兄利久が在城した。利久の養子となった前田慶次はここで生まれたとの説もある。
 図地下鉄東山線「高畑」駅下車、またはあおなみ線「荒子」駅下車徒歩10分 図なし



●清正の枕石

篠島には、名古屋城築城の際に運び出せなかった矢穴が残る大石がいくつも残されている。
 図篠島港より徒歩約40分 図0569-67-3700(篠島観光協会)



●清正公社

清正の叔父の屋敷跡と伝えられている。清正が泥棒退治した故事にちなみ鬼祭も行われている。
 図名鉄津島線「津島」駅下車徒歩12分 図なし



●妙延寺

清正は、この寺に通って読み書き算盤などを習った。習字の半紙をかけた松が今も残る。
 図名鉄津島線「津島」駅下車徒歩7分 図0567-26-4573



●妙行寺

名古屋城築城の際、その余材等を貰いつけて、妙行寺を再建した。
 図地下鉄東山線「中村公園」駅下車徒歩10分 図052-412-3362

加藤 清正 MAP P30

蜂須賀 小六正勝

秀吉の墨俣一夜城築城をはじめ、緻密な情報収集能力と鋭い状況判断力で豊臣秀吉の天下取りを支えた男。



あま市美和歴史民俗資料館蔵

「秀吉動くところ」、小六（正勝）あり」と謳われ、秀吉の天下取りをさまざまな面から支え続けた。天正13年（1585）、阿波国の拝領を辞退して小六はこう言つ。「秀吉殿の側近として仕えることを本望」。小六は最期まで、自分よりはるか年下の秀吉に、忠誠を尽くし続けた。



■曼陀羅寺

家政は、幼いときに本誓院で学んだ縁により正堂を寄進。本誓院には家政の位牌や手習いした文机がある。図名鉄犬山線「江南」駅下車、名鉄バス「江南団地」行き「曼陀羅寺」下車 徒歩2分 図0587-55-1695

秀吉より10歳上。縁戚関係もあった？ 大永6年（1526）、尾張美濃国境にある尾張国海東郡蜂須賀村に生まれた。父の死後、母の故郷宮後村（江南市宮後町）に移住。嫡男家政はここで生まれたとされる。小六と秀吉はおねを通じた縁戚関係にあったともうかがえる。秀吉との出会いが生まれたのかもしれない。若年期には、木曾川にたむろする川並衆と呼ばれる野武士の集団を率いて、水運業を営み、利益を得ていたという。盗賊の首領等の伝説もあるが、これは後世の創作である。

実務肌の武将として、生涯秀吉を補佐。

福島 正則

秀吉と共に、破格ともいえるべき出世で一度は大大名へ。徳川の治世でも、豊臣家への忠誠を忘れることはなかった。



瑞祥山 菊泉院蔵

永禄4年（1561）、尾張国海東郡（あま市）に生まれる。出自は定かではないが、武士ではなく桶屋の子であったともいわれる。また正則の母は秀吉の叔母にあたると言われ、その縁で幼少から秀吉の小姓として仕え、加藤清正と並ぶ秀吉の重臣となった。



■瑞祥山 菊泉院

福島正則の菩提寺。正則公の甲冑姿の肖像画や、位牌、護持仏（木造毘沙門天立像）、重臣らへの書簡「正則公仰書之写」などを収蔵。図名鉄津島線「木田」駅下車徒歩25分 図052-444-0936

武断派としての輝かしい戦歴。

播磨三木城の初陣の後も数々の武功をあげ、天正11年（1583）の賤ヶ岳の戦いでは一番槍、一番首をとり、「賤ヶ岳七本槍」の一人として賞された。

天正15年（1587）の九州攻めの後は、伊予国今治11万石の大名に、また、文禄4年（1595）には清須に24万石の所領を与えられた。

しかしやがて秀吉が没すると、正則は文治派の石田三成に対抗心を燃やす。秀吉の信頼を集めていた三成への嫉妬心であるうか。家康はこの思いを巧みに利用して、正則を取り込んでいく。

善政を施した人気大名。

関ヶ原の戦いでは家康方につき、功を上げた正則は安芸・備後両国に約50万石を封ぜられた。領内では、検地を行い実際の石高に伴った年貢として、農民たちの負担を軽減した。

また、家康の命による名古屋城の築城や、名古屋城下町を貫く堀川の開削など、治水工事に長けた技術者としての側面を発揮した。晩年は改易、蟄居を命じられ、寛永元年（1624）、64歳で没している。

福島 正則 MAP P30



●福島正則生誕地碑

菊泉院の80m南に誕生地碑がある。その裏側が屋敷跡である。菊泉院には位牌も残る。図名鉄津島線「木田」駅下車 徒歩25分 図052-444-0936（菊泉院）



●基目寺観音

尾張四観音の一つ。ここの木造仁王像に、福島正則の奉納を示す墨書が発見された。図名鉄津島線「基目寺」駅下車 徒歩5分 図052-442-3076 写真提供／名古屋博物館



●北市場美濃路公園

福島正則は、美濃路を西に向け関ヶ原の戦いへ出陣。また戦いの後、家康はこの道を凱旋した。図名JR東海道本線「清洲」駅下車 徒歩9分 図なし



●納屋橋欄干の家紋

名古屋の発展を支えた堀川開削は正則の担当だった。欄干の中央には正則の紋所がある。図名地下鉄東山線「伏見」駅下車徒歩5分 図なし

蜂須賀 小六正勝 MAP P30



●法蔵寺

小六は、蓮華寺から持ち運んだ鉄造地藏菩薩立像の余りの重さに困り、この地に安置。後に法蔵寺に祀られた。図名鉄津島線「木田」駅下車 徒歩20分 図なし



●蜂須賀城址

蜂須賀城は蜂須賀氏代々の居城。織田信秀のときにこの城を造られたという。図名鉄津島線「青塚」駅下車 徒歩15分 図なし



●蓮華寺

蜂須賀小六正勝・家政父子の合葬墓が寺の裏山にある。家政は阿波へ移封後も代々菩提寺として保護した。図名鉄津島線「青塚」駅下車 徒歩15分 図052-444-1272



●宮後八幡社

家政が69歳の折、故郷を偲んで八幡社の本殿、釣殿、拝殿を再建、寄進したという。図名鉄犬山線「江南」駅下車 徒歩25分 図なし

■秀吉と共に生きた人々 観光スポットマップ

北政所(おね)
秀吉の正室(妻)

秀吉を愛し、
その片腕として生きた、
正室おね。

当時としては珍しい恋愛結婚だったという。武家の養女であるおねに対して、まだ武功もあげていない秀吉が通い詰めてついに妻にしたという。結婚後は戦で城を空けることの多い秀吉に代わり、政治にも関与していたようにこれは秀吉が関白就任後も続いた。2人の間に子はなかったが秀吉の母大政所には献身的に仕え、加藤清正や福島正則らの武将も育て上げた。また秀吉も側室より正室おねをたてるという姿勢を、終生崩さなかった。秀吉亡き後は、一切表舞台に立つことなく、時代を静観して、やすらかな余生を過ごしたという。

おね MAP P30



●祢々の水 (浅野公園)
良縁を結ぶと伝わる。
図 JR 東海道本線「尾張一宮」駅下車、名鉄バス「君倉駅」行きにて「浅野公園」下車すぐ 間なし



●安井城跡 (山神社)
浅野長勝が築城。長勝は杉原定利からおねを養女に迎えて育てた。
図市バス「安井2丁目」下車、徒歩5分 間なし

名古屋市秀吉清正記念館蔵

大政所(なか)
秀吉の生母

生涯秀吉に愛され、
その死は秀吉を
号泣させた。

なかは永正10年(1513)または13年、尾張国の御器所村で生まれたという。生家は木地師、あるいは鍛冶屋等の説がある。弥右衛門と結婚して、秀吉を生んだが夫の病没後は筑阿弥と再婚。大政所が歴史に登場するのは、天正14年(1586)のこと。秀吉の上洛要請に応じようとして徳川家康に人質と差し出された。これによってついに家康は腰を上げ、秀吉に臣従することになった。文禄元年(1592)、秀吉が朝鮮出兵のさなか、病に倒れ、そのまま没した。秀吉は船で見舞いに向かったが間に合わず、船中で訃報に接して号泣したという。

なか MAP P30



●豊臣秀吉母 (大政所) 宅址
社の一角にある石碑に、「豊公母住」と刻まれている。近くの姫塚はなかの墓との説も。
図地下鉄鶴舞線「荒畑」駅下車徒歩5分 間なし



●日之宮神社
もと日吉権現といった。なかが男子を授けたく、ここに日参したと伝えられている。
図地下鉄東山線「岩塚」駅下車徒歩20分 間なし



(複製) 大阪城天守閣蔵